川崎市青少年育成連盟（㈳川崎市子ども会連盟・ボーイスカウト川崎地区協議会・ガールスカウト川崎市連絡会・川崎海洋少年団）

育連だより

http://web-k.jp/ikuren/

理事長就任挨拶

理事長　木　村　耕　三

平成25年６月13日の理事・評議員会において理事長に選任されました木村でございます。数年前に理事長は各団体の持ち回りにしようとの申し合わせにより今回お引き受けした次第です。

当連盟は設立以来67年を迎えた歴史のある団体で、青少年育成の４団体で構成する全国的にも稀有の貴重な団体です。この様な団体の理事長にご推薦いただき身に余る光栄でございます。

最近少子化現象、子どもたちの趣味の多様化などにより構成員の減少が続いています。しかしながら、子どもたちへの教育の重要性は高まっています。

文部科学省も青少年団体に家庭教育、学校教育とは違った地域の青少年教育団体に野外活動、集団活動を通じた青少年教育を期待しています。明日の日本を背負う青少年の教育を肝に銘じながら、加盟各団体の皆様と共に更に青少年教育活動を昇華させていきたいと念じております。

最後になりますが、加盟各団体の皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

少子化情報提供支援事業研修会の報告

川崎市青少年育成連盟事務局

平成25年６月25日“てくのかわさき”において、少子化情報提供支援事業研修会を開催しました。

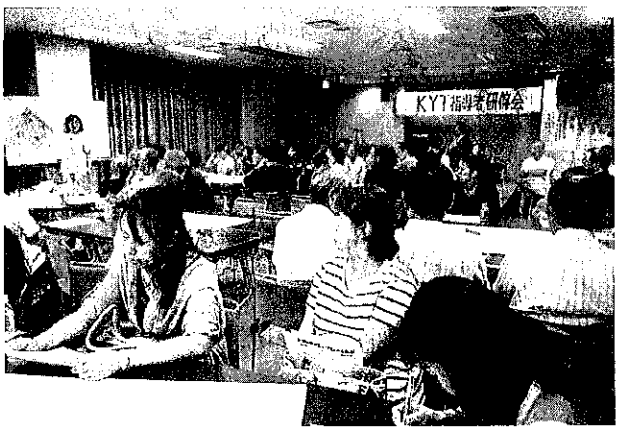
この研修は、川崎市青少年育成連盟が委託されている少子化情報提供支援事業として、川崎市子ども会連盟と共催で行われ、４団体合計110名の参加がありました。

第１部は「熱中症予防について」大塚製薬(株)の阿部秀昭氏のお話、第２部は「KYT・危険予知トレーニング」を６、７名のグループに分かれて、麻生区子ども会・園田眞理子氏の指導で実践しました。

熱中症予防は、単に適切な水分・塩分補給だけでなく、栄養バランスのとれたきちんとした食事も大切であることなどを学びました。

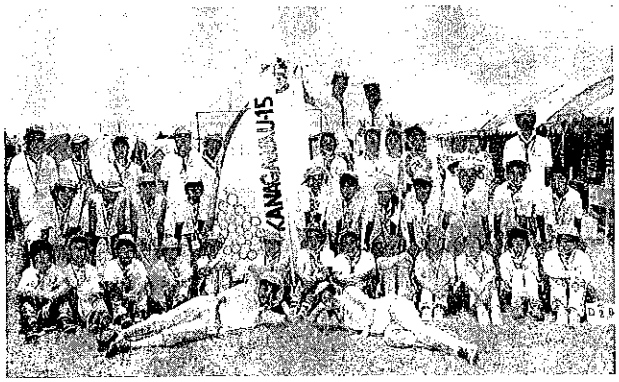
KYTではイラストシートを使用して、隠れた危険を事前に発見し、その対策を考え、安全な活動へと導く訓練をグループで活発な話し合いを通して行いました。

夏の活動の前に、研修会の内容が多くの指導者に周知され、安全で事故のない、楽しい活動につながることを確信できる大変有意義なものでした。



ジャンボリーの思い出

日本ボーイスカウト神奈川15隊　クレソン班　岩　本　博　紀



YAMAGUCHI 2013
30th APR SCOUT JAMBOREE
16th NIPPON JAMBOREE

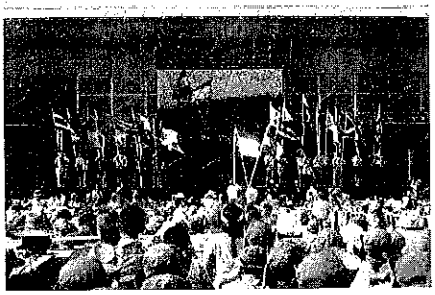
16th NIPPON JAMBOREE YAMAGUCHI KIRARA BEACH
第16回 日本ジャンボリー
2013年7月31日～8月8日 山口県山口市阿知須きらら浜

日本ジャンボリーは、これまでの９年間のスカウト活動で、最高に楽しい出来事でした。そう思う理由が２つあります。

１つ目は、他のスカウトとの交流です。４年に一度しかないジャンボリーでは、日本全国・世界各国からスカウトが集まります。多くのスカウトと、さまざまなプログラムを通じて交流することができ、普段味わうことのできない体験が、非常に心に残りました。

２つ目は、11日間過ごした神奈川15隊の仲間たちそのものです。仲間とテントを建て、食事を作り、そして精一杯楽しむことができたのも、ジャンボリーの一番の思い出です。この仲間たちであったからこそ、こんなに楽しい気持ちでジャンボリーを終えることができました。

ジャンボリーの参加は、多くの文化や人と接し、多くのことを学び、この先の自分の将来に本当に役立つと思いました。この経験は、私の一生の宝になったと思います。



「カッター」って何?

川崎海洋少年団　山　岡　　修

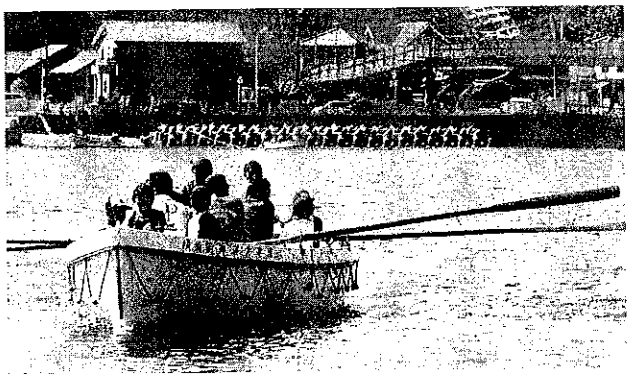
カッターボートは、大型船の横に搭載されている救命艇などに使われるボートのことです。通常はカッターと省略して呼んでいます。

カッターの呼び名についての説はいろいろあります。一般的に船の前と後ろは水の抵抗が少なくなるように細くなっていますが、カッターの後部は細くなっていなくて、切断したような形をしているためにカッター（切断）と呼ばれているという説が有力です。

大型船や海上自衛隊では、船の長さが９メートル、12人でこぐカッターを使っていますが、海洋少年団では６メートル、６人こぎの少し小さいカッターを使っています。

艇長（カッターの船長）の指揮に従って、全員が力を合わせてこぐと、カッターは水面をすべるように進んでいきます。ところが、ひとりでも歩調が合わないと簡単には進んでくれません。つまり、ひとり一人のチームワークが必要とされるのです。カッター訓練からは、体力を強くするだけではなく、人と人の協調性を高めることができます。

最後にカッター訓練で用いる言葉で「おもて」は前を意味します。後はうらとは言わずに「とも」といいます。



等々力緑地・第25回親子写生会の集い

中原区子ども会連合会　田　中　れい子

川崎市子ども会連盟は７区で構成されています。中原区子ども会連合会は細長い市の中間に位置しています。当区子連活動の指針として、子どもたちの文化的活動、子どもリーダーの養成、スポーツ活動、地区町会活動への積極的参加などの年間活動があります。

「等々力緑地・親子写生会の集い」は幼稚園児から大人までを参加対象にした永年継続している文化的行事の一つです。今年も７月第１日曜日、「休日の一日を子どもたちとのんびり写生を楽しむ会」をテーマに、炎天下にもかかわらず、親子で約260名の参加がありました。川崎フロンターレホームグラウンドのある緑地内の花壇や林の中、釣り池周辺、造形施設などに各自写生ポイントを定め、真剣に写生に取り組む子どもたちや親の姿は、大変素晴らしい情景でもありました。そして、この情景こそが親子交流の原点にも見えるような気がしました。

毎年、写生会の全作品は中原市民館内に展示し、多くの区民に見てもらっております。また、12月には表彰式があり、子どもたちは今からホールでの入賞表彰式を楽しみにしています。

楽しかった夏のキャンプ

ガールスカウト神奈川県第70団　吉　村　ゆ　り

私は８月４日から６日まで、第17団と第70団で箱根の「あしの湖キャンプ村」に行きました。バスの中では、「バスレク」の係のスカウトがクイズやゲームをやってくれて、とても楽しかったです。私がその中で特に楽しかったのは「タオルでポン」というゲームです。「タオルでポン」は曲が流れている間に、タオルを首にむすんで、１回手をたたいて後ろの人に渡します。流れている曲が終わった時にタオルを持っている人が、次の曲を決めるゲームです。すごく楽しかったです。

あと、バスの中で友だちがこわい話をしてくれました。私はおもしろかったけど、少しこわかったです。また、おもしろい話もしてくれたからみんなで大わらいをしました。

次に、「おおわく谷」というところに行きました。温泉たまごの黒たまごを食べました。そのにおいは少しくさかったけど食べてみたらふつうのゆでたまごでした。

「あしの湖キャンプ村」につくと近くの森みたいな所でおにぎりを食べました。暑かったけど外でたべるのは気持ちが良かったです。

今年のキャンプは「おもてなしの心」がテーマだったので、６人ずつ６パトロールごとに食事を作ったり、せったいをしました。むずかしかったけど、がんばったので「ポイントシール」をたくさんもらうことが出来ました。

また、来年もキャンプをしたいと思いました。

ガールスカウトふれあいの日

ガールスカウト神奈川県第32団

「スカウトたちの活動を広く地域社会に伝え、理解していただき、ともに活動すること」を目的に5月26日(日)、生田緑地で開催された「ユニセフ・ラブウォーク in かわさき」に参加、実施しました。

♠ジュニア　竹　内　悠　莉

私はふれあいの日に参加して良かったと思います。理由は2つあります。1つ目はユニセフ・ラブウォークに参加できたからです。歩くことが世界の子どもたちの支援になるそうです。2つ目はみんなと一緒にブーメランやロープうさぎを作れたことです。ブーメランはよく飛んだのでうれしかったです。とても楽しい1日でした。

♣ジュニア　石　毛　暖　乃

最初はますかた山に登りました。頂上はとても気持ちがよかったです。登ったり下ったりして歩いているとスタッフの方が「あと少しだよ」と言ってくれたのでやる気になりました。そこからはすぐでしたが、私たちにとっては長く感じました。

♥ジュニア　伊　藤　亜　実

ハイキングはスカウトのみんなとお父さん、お母さんと話をしながら歩き楽しかったです。最後に東日本大震災で被害にあった人たちに皆でメッセージを書きました。私は早く復旧してほしいと願いました。そして、岩手や福島のスカウトと交流したいです。クラフトはブーメランを作ってみんなで競いあったりしました。

◆ブラウニー　木　下　ま　ゆ

ふれあいの日の活動の中で一番楽しかったことは、うさぎのブローチ作りです。ロープをMの字の形にして好きな色のテープをまいて、そこにうさぎの顔を書きました。顔を書いたのが楽しかったです。

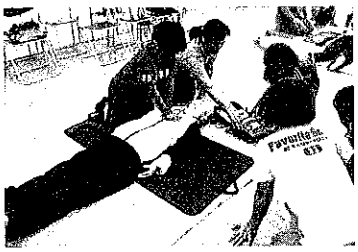
【子ども会親子救命講習会】の紹介

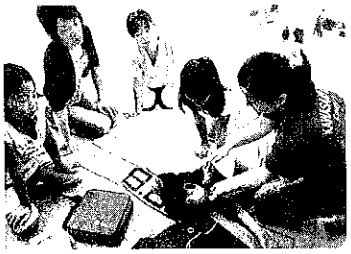
高津区子ども会連合会　保　科　卓　也

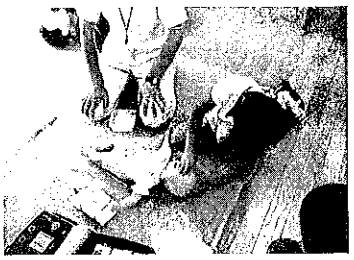
2011年の震災以降、川崎市でも子どもを対象にした救命講習会等を開くよう発信しているとの話を伺い、昨年8月に子ども会主催の「親子救命講習会」を開催。今年も消防署、区の危機管理課にご協力いただき、昨年に引き続き2度目の講習会を8月に開催しました。

大人向けの講習会で見られるAEDの使用法、心臓マッサージ等の仕方を消防士さんとボランティアの方からご指導頂きます。最初は難しい話もありますが、人形などを使用しての講習となると、子ども達が率先して取り組む姿がありました。2時間の講習終了後に配布されます「市民救命士講習入門修了証」を手にした子ども達。新たな責任感が芽生えながらも、最高の笑顔を見せてくれました。

唯一の課題は、保護者の方はもちろん、子ども達も他の子ども会イベントに比べて参加率が悪いことです。「防災」「危機感」「救助」このようなワードを各家庭レベルで真剣に考えないといけない現状が、東京近郊を震源にした地震を想定した場合を含め、川崎市に住んでいる以上、私達にはあると思われます。「救助」「救命」という視点から防災意識を高め、助け合いの気持ちを再認識できる救命講習会を、今後も多くの方に参加して頂けるように取り組んでいきたいと思います。







発　行　川崎市青少年育成連盟
事務局　〒213-0001　高津区溝口1-6-10
生活文化会館（てくのかわさき）3階
TEL 044-811-2125　FAX 044-811-2126

青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、
川崎市青少年育成連盟事務局へ

印刷　有限会社 アキプリント社